

活動報告

■活動日時：2024年10月20日(日) 9:30~15:30

■プログラム名：カブトムシの森 クヌギの伐倒

■目的：クヌギの萌芽更新

■活動場所：カブトムシの森C地区

■参加者：9名

■活動概要：伐倒作業

1班：4名 直径12cm×1本 + 34cm×2本

：計3本のクヌギ伐倒

2班：4名 直径37cm×1本 + 40cm×1本

：計2本のクヌギの伐倒



◆活動内容：

天候は今年一番の初秋を感じさせる快適な作業日和。前日が大雨でしたが徐々に回復し集合時間になる頃には気温約19℃、日中は22.4℃で伐倒作業を快適に行うことができた。

カブ森C地区では、植林後30年程経過した成熟木のクヌギを2班で計4本と小径木を1本の合計5本を計画通り伐倒した。今回、丸太の直径が34~40cmと太く、初めて受け口切をチェーンソーで伐った。当然手伐りと比較にならない程早く受け口を伐ることが出来たがチェーンソーのガイドバーの長さ以上に木が太く経験者でなければ対応できない事を知った。

又、特に2班は伐倒対象木が2本共傾斜地に立ち、熟成木で太く伐倒し辛い条件に加えて、前日の降雨で滑りやすくなっており作業床と昇降路を丁寧に整備し、安全な伐倒作業を行った。1班は伐倒予定になっていた東屋近くのクヌギは上空の電線下にあり電線の保護カバーが中吊りになっている事が分かり急遽、舗装道路側の傾斜地に立つクヌギを伐倒することになった。傾斜地に立つ木の倒れる様子は凄まじく、見学者の方々も自然に育った木の大きさと倒れる様子に圧倒されていた。

見学者には、森会のリーフレットを渡しボランティアの活動概要を説明した。

14時頃には伐倒完了したが、遊歩道に跨った倒木の玉切り・枝処理に時間がかかった。更に30周年記念のベンチも1か所準備する事が出来た。



活動報告

■活動日時：2024年10月20日(日) 12:30~14:30

■プログラム名：カブトムシの森

幼木・希少植物の保護・育成、名札更新こもれびゾーン（旧A地区）

■目的：幼木・希少植物の保護・育成

■活動場所：カブトムシの森 こもれびゾーン（旧A地区）

■参加者：3名

■活動概要：幼木・希少植物の名札更新（こもれびゾーン）

■活動内容：

午前の植生調査に続き、午後13時からスタート。

今回は8月の作業の続きで付替える名札は幼木、成木、草本類約30か所、位置図を元に対象植物を探すのが野草の草丈が高く、目標物が探しにくかった。また、名札を設置する植物の中には春や夏に咲く植物もあり、場所不明での記録も何種もあった。

今回の改良点として以下に

- ① 園芸支柱は0.9m→1.2mに替え、周辺の草丈に埋もれないようにした。
- ② 園芸支柱への名札設置は、園芸用の緑で被覆した結束ワイヤーを使用し、名札が落ちないようにした。
- ③ 名札を樹木に結び付ける麻紐は耐久性がなかったので長持ちする綿紐に替えた。



◆名札付けの作業目的

草生物多様性を高めるために植物種を増やし、低い丈の草から高い丈の草、その後ろに灌木、高木などの多様な植物による空間構成を作らんとするために保護・育成する草本類や木本類の草刈りや除伐作業の中で刈られてしまわないようにするための目印とする。

名札付けは、会員が図面と併せて作業を行い確認してもらうためのもの。また、名札付を作業することでその植物の名前や特徴を覚えることができる。

